別冊資料①

令和8年度松阪地域高等学校活性化推進協議会のまとめ(案)

令和8年〇月

1 これまでの経緯

松阪地域では、令和４年３月に策定した「県立高等学校活性化計画」に基づき、松阪地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備することを目的に、令和４年度に協議会を設置しました。

当協議会では、令和４年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する 15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、当地域の県立高等学校を取り巻く状況や現状、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有しつつ、当地域においてこれからの時代に求められる学びの提供を実現するため協議を進めてきました。また、令和６年度には当事者のニーズを把握するために、地域の中学生と保護者へのアンケートを実施しました。

令和７・８年度の協議会では、地域の中学生・保護者へのアンケート結果や、これまでの協議などをふまえ、15 年先の松阪地域の県立高校の学びと配置のあり方を見据え、令和 10～11 年度に想定される当地域の県立高校の学級減への具体的な対応の方向性をとりまとめることとしました。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和４年３月策定）

「これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方 」

・これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。

・３学級以下の小規模校活性化の検証結果、15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で１学年３学級以下の高等学校は統合についての協議も行う。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議する。

・こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。

・次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

２　当地域の県立高校を取り巻く状況

（１）松阪地域の中学校卒業者数の推移と予測（含む社会増減）

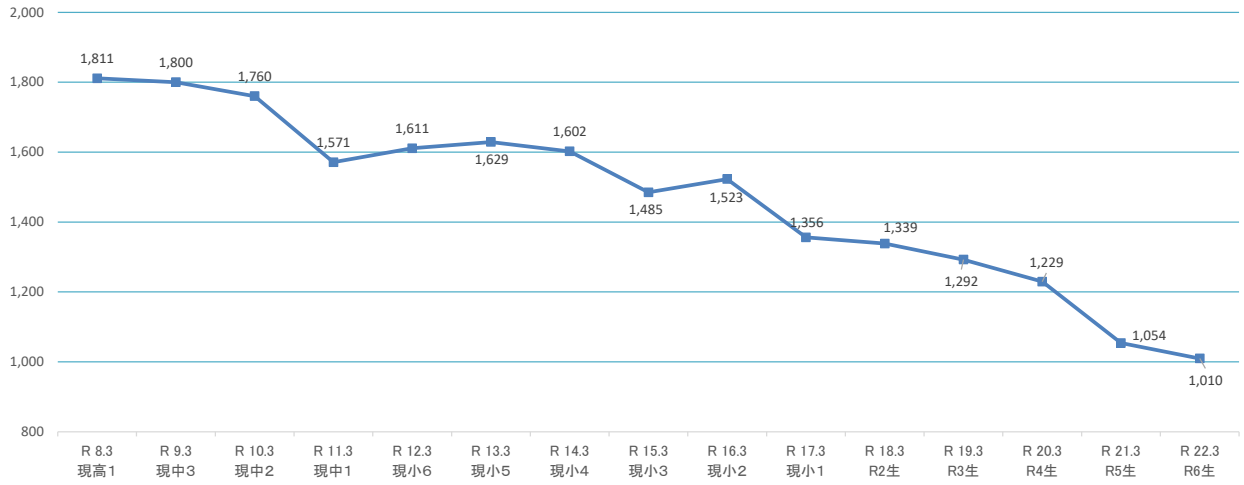
三重県の中学校卒業者数は、令和８年３月の 15,511 人から、令和 17 年３月には 11,764 人（令和８年３月比 3,747 人減）となることが見込まれており、引き続き減少が続きます。減少の度合いは地域によって異なりますが、当地域においては、以下の通り予測されています。

令和 ８年３月　1,811 人

令和 11 年３月　1,571 人（令和８年３月比 240 人［13.3%］減）

令和 17 年３月　1,356 人（令和８年３月比 455 人［25.1%］減）

松阪地域の中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）



また、令和６年度の当地域の出生数に基づく予測値は 1,010 人となっています。

このことから、当地域全体の県立高校（全日制）の１学年の学級数は、中学校卒業者の進路状況が現在と大きく変わらない場合、令和８年度の 25 学級（40 人学級として）から、令和 22 年度には 10～13 学級になることが予想されます。

なお、当地域における学級減が想定される年度末の中学校卒業者数は以下の通り予測しています。

令和 ８年３月　1,811 人

令和 10 年３月　1,760 人（令和８年３月比　51 人［ 2.8%］減）

令和 11 年３月　1,571 人（令和８年３月比 240 人［13.3%］減）

令和 15 年３月　1,485 人（令和８年３月比 326 人［18.0%］減）

（2）松阪地域の中学校卒業者の進路状況

松阪地域の中学校卒業者は、当地域の県立高校（全日制）へ 38.4%が進学しており、地域の県立・私立へは合わせて 56.3%の生徒が進学している状況です。一方、隣接する伊勢志摩・津地域の県立高校（全日制）へ約 20%あり、特に明和町で伊勢志摩地域の県立高校（全日制）へ進学する割合が高くなっています。学校別の状況では、飯南高校は明和町と大台町からの進学者が０人であり、昴学園高校は大台町を除いた１市２町からの進学者が少ない状況となっています。

＜令和８年３月中学校卒業者の進路状況＞

区分 / 年度	卒業者数 ①②③合計	松阪地域①			地域外②				その他③
		全日制県立	私立	地域内合計	伊勢志摩地域全日制県立	津地域全日制県立	その他の県立・私立・高専・県外	地域外合計	
R8.3 卒	1,811	695	324	1,019	145	219	251	615	177
		38.4%	17.9%	56.3%	8.0%	12.1%	13.9%	34.0%	9.8%

※地域外：松阪地域の全日制の県立（６校）と私立（１校）以外の、全日制高校・高専への進学者数
※その他：特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数
※小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳と合計の割合が一致しない場合があります。

（３）通学に係る学校までの所要時間と月当たりの通学費の状況

当地域の全日制県立高校に通学している生徒の通学時間は、60 分以内が 88.7%、90 分以内が 97.8%となっており、概ね 90 分以内で通学できています。

また、通学費用を金額別にみると、不要が約５割と一番多く、８割を超える生徒が 9,000 円以内までとなっています。学校別にみても、概ね地域全体と類似の傾向を示していますが、飯南高校は 13,000 円を超える割合が他校に比べ高い一方、全寮制の昴学園高校は不要が約８割となっています。

【通学時間】（令和８年度在校生） ［単位：%］

通学時間	松阪（839 人）	松阪工業（589 人）	松阪商業（468 人）	飯南（207 人）	相可（572 人）	昴学園（184 人）	合計（2,859 人）	積み上げ
１５分以内	23.2	21.1	7.3	11.6	11.4	82.1	20.7	20.7
３０分以内	32.1	32.3	34.8	1.06	22.2	5.4	27.3	48.1
４５分以内	23.4	22.8	31.2	15.5	24.7	4.3	23.0	71.0
６０分以内	16.0	15.8	15.6	37.2	21.0	4.9	17.7	88.7
９０分以内	3.8	6.3	9.6	24.2	16.1	2.2	9.1	97.8
１２０分以内	1.2	1.0	1.5	1.0	3.1	1.1	1.6	99.4
１２１分以上	0.4	0.8	0.0	0.0	1.6	0.0	0.6	100.0

【通学費用】（令和８年度在校生） ［単位：%］

通学費用	松阪（839 人）	松阪工業（589 人）	松阪商業（468 人）	飯南（207 人）	相可（572 人）	昴学園（184 人）	合計（2,859 人）	積み上げ
不要	48.3	53.1	51.9	19.3	37.8	84.2	48.0	48.0
3,000 円以内	4.4	2.5	1.9	0.5	1.0	3.8	2.6	50.6
5,000 円以内	25.4	20.5	23.7	1.0	8.6	6.5	17.8	68.4
7,000 円以内	8.7	12.7	12.6	0.5	11.5	0.0	9.6	78.0
9,000 円以内	3.5	4.2	4.3	1.9	12.8	1.1	5.4	83.3
11,000 円以内	2.7	1.9	1.9	4.3	12.4	2.7	4.5	87.8
13,000 円以内	2.3	1.4	1.9	0.5	5.2	1.6	2.4	90.2
15,000 円以内	2.6	2.2	1.3	38.2	5.6	0.0	5.3	98.6
15,001 円以上	2.1	1.4	0.4	33.8	5.1	0.0	4.4	100.0

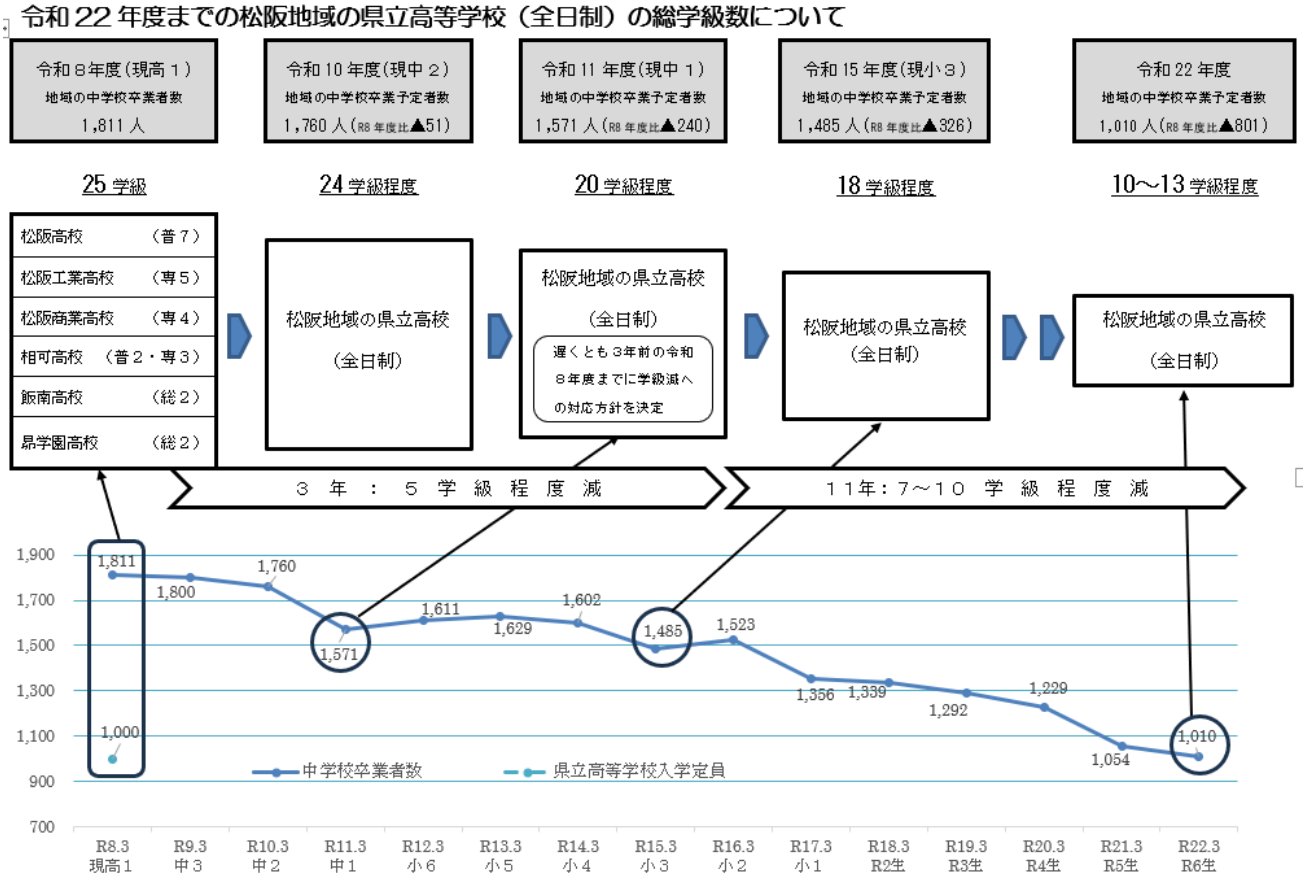
（４）全日制県立高校卒業者の進路状況（令和８年３月卒）

令和８年３月の全日制県立高校卒業者の進路状況は、松阪は 91.5%が四年制大学へ、松阪工業は 72.6%が就職へ、松阪商業は 33.8%が就職、32.7%が四年制大学へ、飯南は 67.9%が就職へ、相可の普通科は 55.1%が四年制大学、専門学科は 64.9%が就職へ、昴学園は 36.1%が専修・各種学校等、32.8%が就職へとなっています。

＜令和８年３月松阪地域の高校卒業者の進路状況＞

区分	四年制大学	短期大学	専修・各種学校等	就職	その他	計
人数	435 (45.3%)	37 (3.9%)	135 (14.1%)	321 (33.4%)	32 (3.3%)	960

（５）令和 22 年度までの松阪地域の県立高等学校(全日制)の総学級数と当協議会の協議について



３　令和７年度・令和８年度の協議内容と主な意見

（１）令和７年度の協議会の概要

○　令和７年度　第１回　令和７年９月30日（火）

松阪地域の県立高校の総学級数が、現在の１学年２５学級から、１５年先には１０～１３学級程度となることが見込まれる中、「令和４～６年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ」をふまえ、令和１０～１１年度に想定される合わせて５学級程度の学級減への対応の方向性について協議しました。

○　令和７年度　第２回　令和８年２月18日（水）

松阪地域の県立高校の総学級数が、現在の１学年２５学級から、１５年先には１０～１３学級程度となることが見込まれる中、「県立高等学校活性化計画」や「令和４～６年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ」をふまえ、令和１０～１１年度に想定される合わせて５学級程度の学級減への対応の方向性について協議しました。

（２）令和７年度の協議会における主な意見

【学校規模について】

○　普通科高校や専門高校など選択肢があっても、小規模校では教員数が少ないことにより学びに制約が生じるのであれば、一定の規模がある高校に普通科と専門学科の両方を設置し、多様な学びができる環境をつくることも考えられるのではないか。また、一定の規模があれば、子どもたちが重視する部活動のニーズに応えることもできる。

○　アンケートで多くの生徒や保護者が高校を選ぶうえで重視することとして回答した「学びたい学科やコースがある」ことを実現するためには、教員数を確保する観点からも、ある程度の学校規模がないと難しい。つらい選択になるが、通学時間も考慮しつつ、学科の枠を超えて学びを集約しながら、子どもたちの希望に応えていく必要がある。

○　教員数の確保に課題があるものの、１学級の定員を減らし、学級数を確保することで、生徒や保護者の多様なニーズに応えることができるのではないか。そのためにも引き続き、県から国に対して学級編制基準の引き下げの要望を続けるなど、県と国が連携していくことが大切である。

○　松阪市の中学校卒業者の一定数が市外へ進学している現状があり、当地域の高校の魅力を高める必要がある。学校規模だけでなく、抜本的に松阪地域の学びをどうしていくのかの議論を進めたい。

○　県立普通科に関しては、当地域の高校は２校だが、今後私立高校への進学者が増えることが懸念される。

○　専門性の高い教員を配置するには、大学進学のニーズに応える普通科系の高校は６学級以上、専門高校においても４～５学級は必要と感じる。中学校における部活動の地域展開や、３５人学級の導入が高校においても進められるのかも注視しながら、昴学園高校を含む松阪地域の高校全体のあり方を検討する必要がある。

○　各市町において小中学校の統合が進んでいるのは少子化の影響だけではなく、津波対策や校舎の老朽化も背景となっている。県立高校についても、伊勢志摩地域との再編も見据え、校舎の老朽

化の状況と今後の建て直しの見通しを示してもらえると、議論が進みやすいのではないか。

○　かつて勤務した小規模校では、１学年３学級から２学級へと減少する中で、生徒が充実した高校生活を送り、希望する進路が実現できるよう努力を重ねたが、教員数が減ることで学校運営が厳しくなり、現在は１学級となっている。こうした状況が訪れる前に、早期に方向性を打ち出していくことも必要ではないか。

○　学級数がほぼ半減する１５年先にあっても、生徒の学びの多様性を確保するため、選択肢を残すべきである。現在ある普通科、職業系専門学科、総合学科といった分類は維持すべきではないか。

○　まずは、令和１１年度までの５学級減への具体的な対応を考える必要がある。当面は各校１学級ずつ減らし、できる限り学校数を維持する考え方もあるが、総学級数がさらに大幅に減少する令和１１年度以降は、施設の老朽化の状況もふまえた抜本的な再編が必要になるのではないか。

○　学校規模を確保するために地域の高校を集約すると通学が不便になるので、各校一定の割合で学級減を行って学校数を維持していくほうがよいのではないか。

【学びのあり方について】

○　既存の学科にとらわれず、普通科で工業や商業について学べたり、機械科に在籍しながら経営について学べたりするような多様性のある学びができる高校があってもよいのではないか。また、授業料無償化が進み高校教育がほぼ義務教育化していく中で、子どもたちが希望する高校で学べるよう、入学者選抜のあり方も検討しつつ、学びの多様化学校のような高校を新たに作っていく必要があるのではないか。

○　昴学園高校は、地域の方や小中学生と双方の活性化をめざしてともに学びあい、交流を進めており、同校の存続を願うものの、今後の生徒減を考えると簡単ではないことも理解している。各高校の活性化に向けた取り組み状況を共有しながら、１５年先を見据えつつ、ある程度イメージが可能なスパンで考えていくことも必要ではないか。

○　増加傾向にある不登校生徒や外国籍の生徒は、私立の通信制高校に進学することが多くなっているが、高校卒業後の進路選択に必要な力の育成に関しては、気がかりな部分がある。国籍の多様化や年度途中での転入も課題となる中、県立高校においても外国籍の生徒の学びの場について検討してもらいたい。

○　地元就職や定住につなげる観点から、例えば週に３日は学校で学び、残りの２日は地元企業で実習するような学科があってもよいのではないか。

○　少人数だからこそ輝く子どもたちは、普遍的にいるのではないか。高校に送り出す側として、そうした高校がこの地域にあってほしい。

○　高校現場では、将来の学校の存続について不安を抱えつつも、子どもたちに精一杯の学びを提供しようと努力している。今後生徒数が減少したとしても、そのときの子どもたちにとってよりよい学びを実現するという思いを持ち続けたい。

○　総合専門高校や、全日制と定時制、通信制の３つの課程を行き来できる愛知県のフレキシブルハイスクールなど、他地域や他府県の先進事例を参考にして検討を進めてはどうか。

○　小学生の保護者は高校のことには関心を持ちにくいが、高校再編が最も影響を及ぼす年代となることが考えられる。こうした世代の保護者に対する情報提供や、高校のあり方について一緒に考

える機会を増やしていくことが大切ではないか。

○　私立高校への進学者が一定数いることを前提に、１５年先の学級数が予測されている。もっと県立高校の魅力を積極的にＰＲし、県立高校のニーズを高めることで、学級減を抑えられれば、今ある学びが維持できるのではないか。

○　少子化が進む中にあっても、それぞれの学校が持つ機能や特色をしっかりと分担していくことが重要である。例えば、県内唯一となる連携型中高一貫教育校である飯南高校における中高の教員交流は、互いの生徒の実態を把握した上で安心して指導できることから非常にメリットは大きい。

○　地域の特色ある高校は維持していきたいが、そのためには卒業後も生徒が地域に定着できる環境を自治体が努力してつくっていく必要があると感じる。また、校舎の耐用年数を考えると、今後５年を目途に、存続させる高校と再編する高校を明確に示せるよう、計画的に検討を進める必要がある。

○　近年の農業科や水産科は、生産者の育成に留まらず、加工・商品開発・起業までを学ぶ場へと進化している。地元の産業を生かして多様な学びができる学科づくりができるとよい。

○　現在の学校数を維持したまま学級減で対応するのは、教育活動への影響が大きく現実的ではない。徐々に小規模化して閉校していくというのではなく、松阪工業高校と松阪商業高校を総合専門高校へ再編するなど、先を見通した方針を早期に打ち出すべきではないか。

【通学について】

○　他地域の協議会のまとめでは、通学時間を概ね９０分以内、できれば６０分以内と具体的に記載している。当地域のアンケート調査でも同様の傾向が見られることから、通学時間の基準を明記してはどうか。

○　通学環境については、所要時間だけでなく、バスや鉄道の発着時刻や運行本数なども考慮する必要があるから、表現を見直す必要がある。

○　松阪市内の中学校は、沿岸部の旧松阪市内から山間部の飯南・飯高地区まで広範囲に立地している。地元の学校がなくなれば、通学方法や時間に影響が生じることもふまえて再編を検討する必要がある。

○　松阪地域は非常に広域であるため、学校の統廃合に伴って通学時間が長くなりすぎると、高校への進学自体を断念する生徒が出ることが懸念される。

○　地域の中学校卒業者数の減少のみを理由に再編を進めるのではなく、公共交通機関の利便性など、通学時間だけでは計れない通学環境が厳しい生徒の学びの選択肢を確保してほしい。

○　松阪市外にある相可高校と昴学園高校については、通学距離の観点から存続すべきであると考えているが、どのような学科・学級数にするかはさらなる議論が必要となる。

【今後の進め方について】

○　今年度協議した「学びと配置のあり方」を基に、当地域が広域であるがゆえに生じる通学環境の課題を考慮しつつ、特色ある学びをどのように配置していくかを中心に、次年度引き続き具体的な再編の方向性について協議したい。

（３）令和８年度の協議の概要

○　第１回　令和８年７月７日（火）

令和１０～１１年度に想定される合わせて５学級程度の学級減への具体的な対応について、今年度中に方向性をとりまとめることから、今後の学びと配置のあり方の方針や、１５年先の学びと配置のイメージについて協議しました。

○　第２回　令和８年９月29日（火）

協議会後に追記します。

○　第３回　令和８年〇月〇日（〇）

協議会後に追記します。

（４）令和８年度の協議会における主な意見

協議会後に追記します。

【学びのあり方について】

○　小学校段階から、自分の興味関心や将来の夢に応じて、具体的にこの高校に行きたいと考えている子どもたちも多い。松阪地域の高校には、多様な選択肢がバランスよく配置されており、こうした高校がなくならないようにしてほしい。

○　地域で活躍する人材を育成するという方針は大切にしてほしい。子どもたち一人ひとりのニーズに対応した教育環境を提供するためには、規模縮小のデメリットを過小評価せず、規模確保のメリットを重視すべきではないか。

○　小規模校に勤務した経験があるが、学級減により教員数が減ると学びのバリエーションが減ってしまい、子どもたちに必要な教育を提供することが難しくなる。大きな変革の時期を迎える中で、子どもたちが希望する学びがなくならないような配置を地域全体で考える必要がある。

○　国が掲げるネクストハイスクール構想と三重県がめざす姿を一致させ、生徒ファーストで協議を進めることが大切である。単に減るから集約するということではなく、各校が積み上げてきた機能をさらに磨きつつ、新たな価値を創造していくという発想で、松阪地域にどんな学校を創るのかを考えていきたい。

○　南勢地区から北・中勢地区へと人口が流出している現状をふまえ、国の高校教育改革も活用して、既存の枠組みにとらわれない新たな学びの拠点を南勢地区に創設するということをぜひ記載してほしい。

【配置のあり方について】

○　中学校３年生のほとんどが、当初は地元の高校への進学を希望しているものの、学力的な面から最終的に他地域の高校を選ぶ生徒も一定数いるという現状がある。子どもたちが高校進学を楽しみにしている中で、現在の中学校２年生は１学級減、中学校１年生は４学級減というのを、どのように示していくのかを考えなければならない。

○　「学びと配置のあり方の方針」に異論はないが、そうなると学校数の減少は避けられない。通学圏内にある津地域や伊勢志摩地域の高校を含めて、子どもたちが学校を選択している現状をふまえ、もっと広域で高校のあり方を議論する場も必要ではないか。

○　地域の事業所は、地域の高校と一体となっていろいろな活動を行ってきた。高校生の活力は地域にとって不可欠であり、地域と高校のつながりについては、今後もしっかりと考えていく必要がある。

○　数の理論でいけば、生徒数の減少により再編が必要であることは理解できる。一方で、地域の県立高校それぞれが、一生懸命魅力づくりに取り組んでいることから、現場の教員の意見をしっかりと把握した上で検討を進めてもらいたい。

○　将来の学校数が前面に出ると、子どもたちや保護者はどの学校がなくなるのかと不安になるので、「現在の６校は３校程度に集約される」という表現はやめてほしい。子どもたちのニーズや社会状況をふまえて、集約する学校でどのような学びを実現するかを考えた上で学校数を決定していくという表現にしてはどうか。

協議内容を整理し記載します

４　今後の松阪地域における高等学校の学びと配置のあり方について

（１）学びと配置のあり方の方針

○　多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する。

○　地域の子どもたちが、地域の高校で学んでみたいと思えるよう、高校の特色化・魅力化を進める。

○　「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力などの資質・能力を育む教育環境を実現する。

○　地域を大切し、地域を愛する心を育むため、「地域に根差した学び」を推進する。

○　急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に対して地元の高校から情報発信を行うなど、小中高が連携したキャリア教育を推進する。

○　進学ニーズに応える高校については、専門性の高い教員を各科目に配置するため、１学年あたり６学級を下回らないことが望ましい。

○　当地域には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、今後も地域を支える人材を育成するため、できる限り専門学科の学びの選択肢を維持することが望ましい。

○　学校行事の充実や部活動の活性化の観点から、一定の学校規模があることが望ましい。特に部活動の活性化の観点からは、１学年あたり４学級以上あることが望ましい。

○　多様化するニーズに対応するため、全日制、定時制、通信制といった課程の枠組みにとらわれない学びのあり方を検討する。

○　通学時間は概ね 90 分以内、できれば 60 分以内となることが望ましい。また、発着時刻や運行本数など公共交通機関の利便性も考慮する。

○　老朽化や防災対策、広域での再編なども視野に、校舎の新築や建替えの議論を進める。

（２）15 年先の学びと配置のイメージ

○　「学びと配置のあり方の方針」をふまえると、大学進学のニーズに応える観点と多様な学びの選択肢を提供する観点を重視しつつ、一定の学校規模を保ちながら、新たな学びの拠点として現在の６校は３校程度へと再編されている。

○　通学環境に配慮しつつ、校舎の新築や建て替えを行い、これからの時代に必要な学びや、一人ひとりのニーズに応じた教育環境が実現している。

○　各校が積み上げてきた機能をさらに磨きつつ、これまでの課程や学科の枠組みにとらわれない、新たな学びの形態が提供されている。

（３）15 年先を見据えた令和 10～11 年度までに想定される５学級減への具体的対応

○　大学進学のニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる１学年あたり６学級以上の高校を、地域に１校は配置する。

○　現在ある専門的な学びを含む多様な学びの選択肢を大切にしながら、専門学科においては学科改編を検討し、総合学科においては系列の学びなどの集約を図る。

○　松阪地域だけでなく、県内全域における学びの選択肢を維持する観点から、県内唯一の学びの形態を有する学校は維持する。

○　学校行事や部活動など、子どもたちが協働的に活動できる環境を提供できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。

○　多様化するニーズに対応するため、全日制、定時制、通信制といった課程の枠組みにとらわれない学びのあり方については、引き続き協議する。

○　こうしたことから、当地域の子どもたちの多様で豊かな学びをさらに発展させ、県立高校の一層の特色化・魅力化を実現するため、令和 11 年度入学者選抜（令和 10 年度実施）から飯南高校の募集を停止し、当地域の全日制課程を６校から５校へと再編する。

（４）今後の協議について

○　２学級の減少が想定される令和 15 年度には、令和 11 年度の学級減への対応後の配置のままでは、当地域の高校として望ましいとされる学校規模を維持することが難しくなることから、「15 年先の学びと配置のイメージ」の実現に向けて、次期県立高等学校活性化計画もふまえながら、新たな価値を創造していくという発想で議論を進め、令和 11 年度を目途に方向性を取りまとめます。

○　多くの校舎で老朽化が進んでいることから、集約する学校でどのような学びを実現するかを考えた上で、校舎の新築や建て替えを含めた配置のあり方について、その方向性を示します。

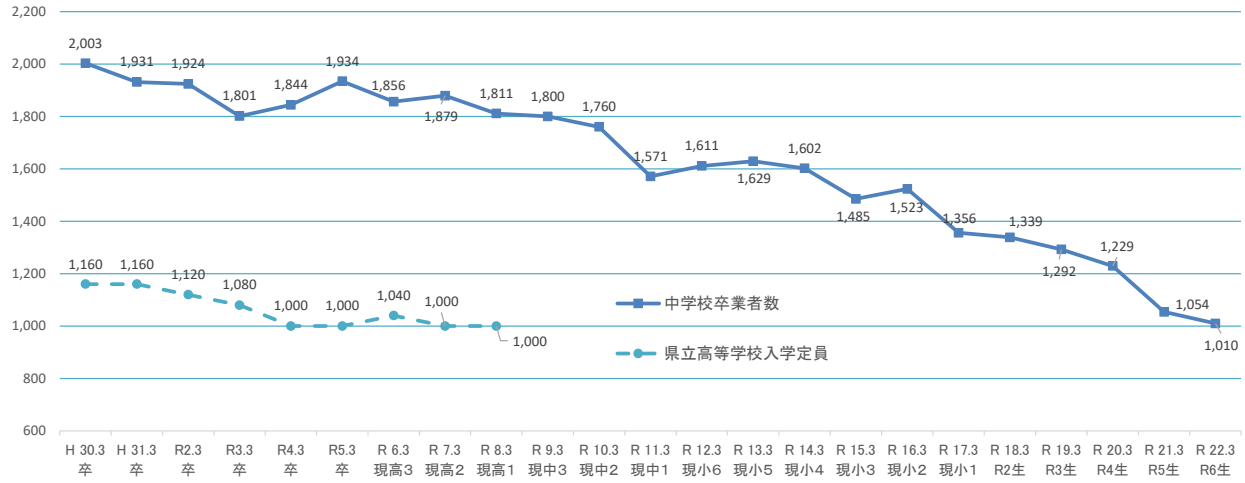
【参考資料】

○　松阪地域の中学校卒業者数の推移と予測（含む社会増減）

令和8年5月1日　教育政策課調べ

		R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 卒業	R 9.3 現中３	R 10.3 現中２	R 11.3 現中１	R 12.3 現小６	R 13.3 現小５	R 14.3 現小４	R 15.3 現小３	R 16.3 現小２	R 17.3 現小１
松阪市	卒業者数	1,457	1,467	1,446	1,390	1,441	1,331	1,226	1,200	1,249	1,213	1,096	1,143	999
	前年度対比		10	−21	−56	51	−110	−105	−26	49	−36	−117	47	−144
	R8.3対比					51	−59	−164	−190	−141	−177	−294	−247	−391
多気郡	卒業者数	477	389	433	421	359	429	345	411	380	389	389	380	357
	前年度対比		−88	44	−12	−62	70	−84	66	−31	9	0	−9	−23
	R8.3対比					−62	8	−76	−10	−41	−32	−32	−41	−64
小計	卒業者数	1,934	1,856	1,879	1,811	1,800	1,760	1,571	1,611	1,629	1,602	1,485	1,523	1,356
	前年度対比		−78	23	−68	−11	−40	−189	40	18	−27	−117	38	−167
	R8.3対比					−11	−51	−240	−200	−182	−209	−326	−288	−455
県内合計	卒業者数	16,055	15,891	15,718	15,511	15,303	14,834	14,377	14,011	14,032	13,398	12,753	12,420	11,764
	前年度対比		−164	−173	−207	−208	−469	−457	−366	21	−634	−645	−333	−656
	R8.3対比					−208	−677	−1,134	−1,500	−1,479	−2,113	−2,758	−3,091	−3,747

○　松阪地域中学校卒業者数と県立高等学校（全日制）入学定員の推移と予測



【松阪地域の出生数】

	R2年度生 5～6歳	R3年度生 4～5歳	R4年度生 3～4歳	R5年度生 2～3歳	R6年度生 1～2歳
松阪市	1,089	1,018	979	856	832
多気郡	264	281	259	209	191
合　計	1,353	1,299	1,238	1,065	1,023
予測値	1,339	1,292	1,229	1,054	1,010

○　松阪地域の中学校卒業者進路先の推移

(1)松阪地域（1市3町）の状況

市町	卒業年度	卒業者数	松阪地域（全日制）									地域内合計①	地域外（全日制）				地域外合計②	その他合計③	合計(①+②+③)
			県立高校							私立高校									
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昴学園	県立小計	三重	私立小計		伊勢志摩地域県立	津地域県立	県内私立・高専	その他県立、県外			
1市3町の合計	7年度（R8.3卒）	1,811	225	148	111	63	129	19	695	324	324	1,019	145	219	199	52	615	177	1,811
			12.4%	8.2%	6.1%	3.5%	7.1%	1.0%	38.4%		17.9%	56.3%	8.0%	12.1%	11.0%	2.9%	34.0%	9.8%	100.0%
	6年度（R7.3卒）	1,879	222	137	115	79	144	8	705	314	314	1,019	141	243	218	44	646	214	1,879
			11.8%	7.3%	6.1%	4.2%	7.7%	0.4%	37.5%		16.7%	54.2%	7.5%	12.9%	11.6%	2.3%	34.4%	11.4%	100.0%
	5年度（R6.3卒）	1,856	207	151	104	80	130	14	686	307	307	993	140	264	219	42	665	198	1,856
			11.2%	8.1%	5.6%	4.3%	7.0%	0.8%	37.0%		16.5%	53.5%	7.5%	14.2%	11.8%	2.3%	35.8%	10.7%	100.0%

(2)市町別の状況

	卒業年度	卒業者数	松阪地域（全日制）									地域内合計①	地域外（全日制）				地域外合計②	その他合計③	合計(①+②+③)
			県立高校							私立高校									
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昴学園	県立小計	三重	私立小計		伊勢志摩地域県立	津地域県立	県内私立・高専	その他県立、県外			
松阪市	7年度（R8.3卒）	1,390	172	122	83	54	81	3	515	275	275	790	68	205	135	42	450	150	1,390
			12.4%	8.8%	6.0%	3.9%	5.8%	0.2%	37.1%		19.8%	56.8%	4.9%	14.7%	9.7%	3.0%	32.4%	10.8%	100.0%
	6年度（R7.3卒）	1,446	176	110	89	61	94	1	531	265	265	796	69	224	151	36	480	170	1,446
			12.2%	7.6%	6.2%	4.2%	6.5%	0.1%	36.7%		18.3%	55.0%	4.8%	15.5%	10.4%	2.5%	33.2%	11.8%	100.0%
	5年度（R6.3卒）	1,467	170	127	81	66	83	2	529	280	280	809	62	241	151	36	490	168	1,467
			11.6%	8.7%	5.5%	4.5%	5.7%	0.1%	36.1%		19.1%	55.1%	4.2%	16.4%	10.3%	2.5%	33.4%	11.5%	100.0%
多気町	7年度（R8.3卒）	156	28	7	7	9	33	1	85	13	13	98	18	2	18	3	41	17	156
			17.9%	4.5%	4.5%	5.8%	21.2%	0.6%	54.5%		8.3%	62.8%	11.5%	1.3%	11.5%	1.9%	26.3%	10.9%	100.0%
	6年度（R7.3卒）	176	22	9	10	18	29	0	88	22	22	110	14	10	26	3	53	13	176
			12.5%	5.1%	5.7%	10.2%	16.5%	0.0%	50.0%		12.5%	62.5%	8.0%	5.7%	14.8%	1.7%	30.1%	7.4%	100.0%
	5年度（R6.3卒）	148	16	9	4	14	34	3	80	13	13	93	19	5	14	5	43	12	148
			10.8%	6.1%	2.7%	9.5%	23.0%	2.0%	54.1%		8.8%	62.8%	12.8%	3.4%	9.5%	3.4%	29.1%	8.1%	100.0%
明和町	7年度（R8.3卒）	196	17	16	18	0	4	0	55	22	22	77	56	11	38	7	112	7	196
			8.7%	8.2%	9.2%	0.0%	2.0%	0.0%	28.1%		11.2%	39.3%	28.6%	5.6%	19.4%	3.6%	57.1%	3.6%	100.0%
	6年度（R7.3卒）	198	17	14	12	0	9	1	53	16	16	69	53	9	36	2	100	29	198
			8.6%	7.1%	6.1%	0.0%	4.5%	0.5%	26.8%		8.1%	34.8%	26.8%	4.5%	18.2%	1.0%	50.5%	14.6%	100.0%
	5年度（R6.3卒）	191	15	12	12	0	4	1	44	10	10	54	54	17	48	1	120	17	191
			7.9%	6.3%	6.3%	0.0%	2.1%	0.5%	23.0%		5.2%	28.3%	28.3%	8.9%	25.1%	0.5%	62.8%	8.9%	100.0%
大台町	7年度（R8.3卒）	69	8	3	3	0	11	15	40	14	14	54	3	1	8	0	12	3	69
			11.6%	4.3%	4.3%	0.0%	15.9%	21.7%	58.0%		20.3%	78.3%	4.3%	1.4%	11.6%	0.0%	17.4%	4.3%	100.0%
	6年度（R7.3卒）	59	7	4	4	0	12	6	33	11	11	44	5	0	5	3	13	2	59
			11.9%	6.8%	6.8%	0.0%	20.3%	10.2%	55.9%		18.6%	74.6%	8.5%	0.0%	8.5%	5.1%	22.0%	3.4%	100.0%
	5年度（R6.3卒）	50	6	3	7	0	9	8	33	4	4	37	5	1	6	0	12	1	50
			12.0%	6.0%	14.0%	0.0%	18.0%	16.0%	66.0%		8.0%	74.0%	10.0%	2.0%	12.0%	0.0%	24.0%	2.0%	100.0%

○　松阪地域の県立高等学校（全日制）卒業生の進路状況

【令和８年３月卒】

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	290	3	6	1	17	317
		91.5%	0.9%	1.9%	0.3%	5.4%	100.0%
松阪工業	工業	20	9	22	135	0	186
		10.8%	4.8%	11.8%	72.6%	0.0%	100.0%
松阪商業	商業 国際	57	8	31	51	4	151
		37.7%	5.3%	20.5%	33.8%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	0	12	36	3	53
		3.8%	0.0%	22.6%	67.9%	5.7%	100.0%
相可	普通	43	10	19	4	2	78
		55.1%	12.8%	24.4%	5.1%	2.6%	100.0%
	農業 家庭	7	5	23	74	5	114
		6.1%	4.4%	20.2%	64.9%	4.4%	100.0%
昴学園	総合	16	2	22	20	1	61
		26.2%	3.3%	36.1%	32.8%	1.6%	100.0%
普通科計 （理数科含む）		333	13	25	5	19	395
		84.3%	3.3%	6.3%	1.3%	4.8%	100.0%
専門学科計		84	22	76	260	9	451
		18.6%	4.9%	16.9%	57.6%	2.0%	100.0%
総合学科計		18	2	34	56	4	114
		15.8%	1.8%	29.8%	49.1%	3.5%	100.0%
合計		435	37	135	321	32	960
		45.3%	3.9%	14.1%	33.4%	3.3%	100.0%

○　松阪地域の県立高等学校(全日制)への通学状況(令和8年5月1日　学校基本調査より)

（１）通学方法別生徒数と割合

通学方法＼学校名		松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計
徒歩のみ		19	21	7	1	17	150	215
		2.3%	3.6%	1.5%	0.5%	3.0%	81.5%	7.5%
自転車のみ		383	285	223	26	168	5	1,090
		45.6%	48.4%	47.6%	12.6%	29.4%	2.7%	38.1%
JRのみ		4	56	7	0	77	0	144
		0.5%	9.5%	1.5%	0.0%	13.5%	0.0%	5.0%
私鉄のみ		192	92	24	0	0	0	308
		22.9%	15.6%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%
バスのみ		35	16	0	108	86	7	252
		4.2%	2.7%	0.0%	52.2%	15.0%	3.8%	8.8%
船のみ		0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
JRと	私鉄	10	0	0	0	3	0	13
		1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%
	バス	1	5	0	1	31	19	57
		0.1%	0.8%	0.0%	0.5%	5.4%	10.3%	2.0%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	72	44	52	2	57	0	227
		8.6%	7.5%	11.1%	1.0%	10.0%	0.0%	7.9%
私鉄と	バス	7	2	0	6	48	0	63
		0.8%	0.3%	0.0%	2.9%	8.4%	0.0%	2.2%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	104	56	120	0	5	0	285
		12.4%	9.5%	25.6%	0.0%	0.9%	0.0%	10.0%
バスと	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	7	5	20	48	32	3	115
		0.8%	0.8%	4.3%	23.2%	5.6%	1.6%	4.0%
船と	自転車	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他 （車送迎、3つ以上の交通機関等）		5	7	15	15	48	0	90
		0.6%	1.2%	3.2%	7.2%	8.4%	0.0%	3.1%
合計		839	589	468	207	572	184	2,859

（２）通学費用別生徒数と割合

学校名 / 費用	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計	積み上げ
不要	405	313	243	40	216	155	1,372	1,372
	48.3%	53.1%	51.9%	19.3%	37.8%	84.2%	48.0%	48.0%
3,000円以内	37	15	9	1	6	7	75	1,447
	4.4%	2.5%	1.9%	0.5%	1.0%	3.8%	2.6%	50.6%
5,000円以内	213	121	111	2	49	12	508	1,955
	25.4%	20.5%	23.7%	1.0%	8.6%	6.5%	17.8%	68.4%
7,000円以内	73	75	59	1	66	0	274	2,229
	8.7%	12.7%	12.6%	0.5%	11.5%	0.0%	9.6%	78.0%
9,000円以内	29	25	20	4	73	2	153	2,382
	3.5%	4.2%	4.3%	1.9%	12.8%	1.1%	5.4%	83.3%
11,000円以内	23	11	9	9	71	5	128	2,510
	2.7%	1.9%	1.9%	4.3%	12.4%	2.7%	4.5%	87.8%
13,000円以内	19	8	9	1	30	3	70	2,580
	2.3%	1.4%	1.9%	0.5%	5.2%	1.6%	2.4%	90.2%
15,000円以内	22	13	6	79	32	0	152	2,732
	2.6%	2.2%	1.3%	38.2%	5.6%	0.0%	5.3%	95.6%
15,001円以上	18	8	2	70	29	0	127	2,859
	2.1%	1.4%	0.4%	33.8%	5.1%	0.0%	4.4%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学費用は1か月あたりの費用

（３）通学時間別生徒数と割合

学校名 / 時間	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計	積み上げ
15分以内	195	124	34	24	65	151	593	593
	23.2%	21.1%	7.3%	11.6%	11.4%	82.1%	20.7%	20.7%
30分以内	269	190	163	22	127	10	781	1,374
	32.1%	32.3%	34.8%	10.6%	22.2%	5.4%	27.3%	48.1%
45分以内	196	134	146	32	141	8	657	2,031
	23.4%	22.8%	31.2%	15.5%	24.7%	4.3%	23.0%	71.0%
60分以内	134	93	73	77	120	9	506	2,537
	16.0%	15.8%	15.6%	37.2%	21.0%	4.9%	17.7%	88.7%
90分以内	32	37	45	50	92	4	260	2,797
	3.8%	6.3%	9.6%	24.2%	16.1%	2.2%	9.1%	97.8%
120分以内	10	6	7	2	18	2	45	2,842
	1.2%	1.0%	1.5%	1.0%	3.1%	1.1%	1.6%	99.4%
121分以上	3	5	0	0	9	0	17	2,859
	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.6%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学時間は片道の所要時間

○　松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

１　生徒を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「通学のしやすさ・距離」（49.3%）、「学校の雰囲気・イメージ」（49.0%）に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」（42.4%）、「学びたい学科やコースがある」（39.5%）、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」（35.7%）の順となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」（52.6%）、「基本的な知識が身につく教育」（43.1%）をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」（42.0%）、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（40.1%）を期待している。

（３）希望する学級数について（問 10）

多い順に「４～６学級」（42.1%）、「２～３学級」（36.3%）、「１学級」（18.0%）、続いて「７学級以上」（3.7%）となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」（51.1%）、「30 分以内まで」（28.9%）、「90 分以内まで」（13.5%）、「120 分以内まで」（4.1%）、「121 分以上」（2.3%）となっている。

（５）将来生活する場所について（問 12）

「まだ決まっていない、わからない」（40.4%）が多く、「健康・スポーツ関係（インストラクター、選手・監督など）」（13.9%）、「医師、看護師、薬剤師など」（11.4%）と「理容、美容関係」（11.4%）と続いている。

（６）将来生活する場所について（問 14）

「まだ決まっていない、わからない」（32.5%）が最も多く、続いて、「県外」（20.6%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」（18.7%）、「地元（現在住んでいる市町）」（12.3%）となっている。

２　保護者を対象としたアンケート結果

（１）高校選びで重視すること（問６）

「学びたい学科やコースがあること」（73.3%）に続いて、「通学のしやすさ・距離」（64.4%）、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」（59.4%）に続いて、「進学・就職の実績」（39.5%）、「確かな学力を身につける授業が充実していること」（39.2%）、となっている。

（２）高校に期待する教育（問８）

「自ら学び続ける力が身につく教育」（61.0%）をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（60.7%）、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」（53.6%）、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」（49.0%）を期待している。

（３）学級の規模について（問 10）

多い順に「４～６学級」（45.4%）、「２～３学級」（36.9%）、「１学級」（11.9%）、続いて「７学級以上」（5.8%）となっている。

（４）通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」（66.4%）、「30 分以内まで」（24.1%）、「90 分以内まで」（8.3%）、「120 分以内まで」（0.9%）、「121 分以上」（0.2%）となっている。

（５）将来生活する場所について（問 12）

「本人の希望次第」（71.2%）が最も多く、続いて、「地元（現在住んでいる市町）」（9.1%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」（6.8%）となっている。

（６）今後の松阪地域の県立高校のあり方について

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」（68.4%）が最も多く、続いて「統合は避けるべき」（27.0%）、「積極的に統合を進めるべき」（4.5%）となっている。